

進捗報告書（資金分配団体）

事業名:

Version 1.0

資金分配団体: 公益社団法人 ユニバーサル志縁センター

日付: 2022年1月4日

実行団体数: 17団体

実施時期: 2021年 3月～2022年 3月

事業対象地域: 全国

事業対象者: 社会的養護を巣立った若者と、それらの若者に伴走支援を行う自立援助ホーム、アフターケア事業などの事業者

I. 事業概要

事業概要
社会的養護の下に暮らす（暮らした）子どもたちをはじめ社会的自立が困難な状況の若者は虐待の経験や精神障害など様々な困難を抱えており、コロナ禍で失職や休業、外出自粛などにより精神面、経済面に一層の困難を生じさせている。 また、コロナ禍の失業や休業の影響で「自立のために貯めてきた貯金を取り崩す」者や「生活保護を申請する」者も出ている。 彼らの多様な自立に向けた伴走支援事業に対し助成を行い、支援を届けるための活動や体制づくりをサポートする。 それにより社会課題の当事者となる若者の「社会的孤立」や「経済的困窮」からの脱却に繋げていく。

II. 進捗報告の概要

総括
○総括 コロナの影響を受ける若者が多く、想定以上の対応を行っている団体が多い。 特に相談支援は想定以上の件数となっている団体が多くあり、新型コロナウイルスの影響が長期化する中、人と会う機会が極端に減少することや、虐待被害からの逃げ場を失うなどすることで、メンタル面に影響を及ぼすケースについて多く聞かれた。

III. 活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
新型コロナウイルスの影響が多様なため、各実行団体の目標設定を支援し、それぞれ個別に設定する。（重視すること：当事者の「社会的孤立」、「経済的困窮」からの脱却）	平均目標達成率：65% 基本的に中間時点で半分以上の目標を達成している団体が多いため、事業完了時には100%達成となる団体が多い予定。 （月毎での数字を目標としている団体もいるため、単純に中間の達成率とはなっていない。また、100%以上の達成を一律100%として計算しているため、全団体の平均では低くなる） ・資金分配団体実施による研修を実施、参加者アンケートの結果、「14/20」の参加者が「活かせそう」と回答。「支援の最先端の大事な考え方を分かりやすく教えていただけ、自分達の支援を振り返り改善するきっかけになりました。また、他団体の取り組みも聞くことができ、新たな繋がりが作れそうです。」「ストレングスの考え方について、とても参考になりました。」等の感想 ・実行団体同士の交流会を開催し、各団体の知見の共有や、団体同士での連携も広がった。 C)社会的養護等の若者について理解し、体験就労や雇用を受入れる企業が増えている ・仕事の切り出しを通して柔軟な働き方を取り入れた支援や、ロータリークラブへの営業などを通して受け入れ開拓を行った団体などがあつた。

実行団体名	進捗状況	概要
特定非営利活動法人ノースガイア	計画通り	平均目標達成率：82% HPの開設やチラシの配布などを行い、想定以上に相談がきている。 来年度の継続が課題。
認定特定非営利活動法人育て上げネット	計画通り	平均目標達成率：63% 食料提供は想定以上のニーズがあり、地元のフードバンクと繋がることでニーズに対応。 少年院を出院する少年を支援するネットワーク作りも進んでいて、大阪で一つの形が作れそう
特定非営利活動法人フェアスタートサポート	計画通り	平均目標達成率：51% サイトへの企業掲載数は順調に推移。サイトの公開が遅れたため活用は進んでいないが、活用が進めば目標達成の見込み
特定非営利活動法人eワーク愛媛	計画修正	平均目標達成率：22% 支援対象者の掘り起こしが想定以上に難しく、目標を達成できていないため目標値を変更する予定。自立援助ホームや更生保護施設との連携や情報交換を進め、支援が必要な対象者の情報が入りやすい体制を整える。
特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット	計画通り	平均目標達成率：84%、（別紙変更予定） 初期はコロナ禍で思うように活動できなかったものの、緊急事態終了後の相談が増加している。 企業との連携も進み、見学会や体験に参加する若者も順調に増えている。
一般社団法人アマヤドリ ステップハウスアマヤドリ	ほぼ計画通り	平均目標達成率：33%、（別紙変更予定） 一人部屋の希望者が多く入居定員を減らしたため目標達成は難しい。研修についても一人ひとりへの個別相談で対応した方がより柔軟な支援ができるため運用を変更。目標を変更するかについては検討中。 様々な機関とも繋がり、当事者を支援する体制は順調に整ってきている。
特定非営利活動法人CAN ピッケノハコ	計画通り	平均目標達成率：79% コロナ禍でイベントの開催が困難であったが、他機関からの紹介やSNSでつながった利用者の利用が計画以上に増えている。 ニーズが増えすぎているため、他機関とも連携しキャパのバランスを模索していく。
一般社団法人コンパスナビ	ほぼ計画通り	平均目標達成率：約33% コロナ禍の影響もあり初期の進捗が芳しくなかったが、体制を整備し事業を進めている。 数値目標の100%達成はまだ不透明な部分はあるが、目標の「困りごとを一人で抱え込むことなく、他者に相談できるようになる」は成果が出ている。
特定非営利活動法人 日向ぼっこ	計画通り	平均目標達成率：100%、（別紙変更予定） 食糧送付支援を通して継続的な関係構築を進められている。コロナ禍で関係構築が難しくなる中、若者の社会的孤立の防止に寄与している。 継続的に関わっていくことで、当事者の自己決定、自己実現を促していく。
特定非営利活動法人どりいむスイッチ 退所児童等アフターケア事業所カモミール	計画通り	平均目標達成率：85%、（別紙変更予定） ほとんどの項目で目標以上にアウトリーチの成果が出ている。 想定以上にニーズがあり人手不足が課題。当初ボランティアを想定していたが担う業務の内容的に課題があり、予算を見直し臨時スタッフを雇用する方向で進めている。
認定非営利活動法人 こどもの里 こどもの里	計画通り	平均目標達成率：77% 新型コロナの影響で一時実施できなくなる事業もあったが、相談支援などは目標を上回る件数を実施。この事業を通して退所者へのアフターケアを強化したが、コロナの影響もあり想定以上のニーズがあった。
一般社団法人SHOEHORHON	ほぼ計画通り	動画作成のための取材は順調に進んでいるが、編集が追いついていないため公開までいっていない。また、コロナ禍の影響もありカフェの来店客数が増えず、継続的な運営に課題がある。企業等との連携などを検討し課題解決を模索する。
特定非営利活動法人スマイルリング	ほぼ計画通り	平均目標達成率：78% マスコミ掲載も多く、相談やボランティアとして関わる大人も増えており、支援事業は順調。ただ、事業の管理体制に課題があり体制強化を模索している。（予算上の課題もあり実施には長期的な伴走の必要性も感じる。）
社会福祉法人子供の家 自立援助ホームあすなろ荘	遅延あり	平均目標達成率：43% 体験就労の企業開拓については、闇雲に開拓するより当事者のニーズに合わせてピンポイントでアプローチする方針に変更。コロナ禍の影響もあり実施が遅れており、今後体制を改善を模索する。
NPO法人なんとかなる 自立援助ホームなんとかなり荘、なんとかでき荘	ほぼ計画通り	平均目標達成率：80%、（別紙変更予定） 定期的なカウンセリングなどを通して心身を安定させ、新型コロナ禍で就労が難しい若者の就労を図る。 求人状況に課題はあるが、多くはアルバイトを通して貯蓄を増やしている状況。
社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは	ほぼ計画通り	平均目標達成率：77% コロナ禍によって相談件数が非常に増えている。 友人や恋人の家などに自由に行き来できなくなったことで（レスバイト先が絶たれる）、本来あった親や家族からの支配や精神的虐待が加速し、支配や虐待の現実が可視化されたケースが増えた。

非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
組織基盤強化① (組織運営・ガバナンス)	計画通り	契約前にロジックモデル作成研修を実施。すべての団体がロジックツリーを作成し事業を開始。現在、ロジックモデルの検証を行い最終報告の方向性を検討中。
組織基盤強化② (人材育成・ボランティア)	計画通り	当事者中心の支援に向けた研修として、ストレングスマデル研修と、自立援助ホームの運営に関する研修を実施。
ネットワーク形成	計画通り	研修2回と、交流会2回開催。それぞれの事業での各団体の連携が進んでいる事例もでている。(他地域の相談先としての連携、意見交換等を通じたノウハウの共有など) その他必要に応じて、食糧支援の団体へ繋ぐ、社会的養護関係団体の紹介などを実施。
調査、普及・啓発	計画通り	首都圏若者サポートネットワークに関する団体も含む関係団体にアンケート（66団体回答）を取り、野田聖子大臣などへの政策提言を行った。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>■当事者となる若者 新型コロナウイルスの影響を受ける施設退所後も支援が必要な若者が、生活困窮者自立支援制度や生活保護などを含め、必要な支援を求められる状態、必要な支援に繋がることができる状態。</p> <p>A)若者が</p> <p>1.実行団体とつながり、あるいはつながりを回復し、困窮する前に相談できる ・食料の提供や、チラシ・SNS等によるアウトリーチによって新しい繋がりができている。 ・とくに食料提供のニーズは多く、アウトリーチのための手段としての有効性を感じられている。</p> <p>2.住む場所を確保できている ・住居や緊急シェルターを提供している団体については、住居を提供。直接提供していない場合も他団体と連携し住居支援を行っている団体も多い。 ・安心して住むことが出来る場所を提供することで自立に向けてそれぞれのペースで進む環境を整えることができている。</p> <p>3.就労のチャレンジができている ・新型コロナの影響で体験就労や求人状況に厳しさを感じている団体もある。 ・企業開拓をしっかりと行った団体は成果をだせている。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥75,566,651	¥75,566,651	¥70,626,651	93%
	管理的経費	¥224,000	¥11,445,349	¥11,669,349	¥7,746,376	66%
プログラム・オフィサー関連経費		¥0	¥2,560,000	¥2,560,000	¥679,354	27%
合計		¥224,000	¥89,572,000	¥89,796,000	¥79,052,381	88%
補足説明		11月末時点				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>コロナ禍の影響で、体験就労やイベント開催など計画通り進まなかった団体も多い、それぞれ他の目標を重視するなどし対応。また、抗原検査などを導入してなるべく予定通りの実施（会社見学など）した団体もあった。</p>

VII. その他

自由記述
<p>完了報告に向けて、契約前にそれぞれの団体ごとに作成したロジックモデルについて、現在検証を現在行っている。 それぞれの団体の事業成果は完了報告書で報告予定。</p>

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	事業終了後にまとめる予定。

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	現在申告用の書類フォーマットを作成中
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。	いいえ	現状は規定の整備に留まっている。